

第  
80話

聖徳太子、富士山を飛ぶ 文と絵・山崎しげ子

富士山を越え、信濃国（長野県）を過ぎ、三日後に飛鳥の地に帰つてきた。「飛ぶこと雷電のごとし」と。

奈良県の北西、緑深い矢田丘陵

では地名の由来ともなつた、黄色い嘴くちばしが特長のイカル(鶴)が群れをなして飛んでいたという。

碧鳩町といふは法隆寺を創建した聖德太子。今回は、その太子と愛馬の黒駒、太子の舍人（世話係）調子麿とのとても不思議なお話。

六  
六  
六

太子、二十七歳のときのこと。甲か斐国（山梨県）から献上された黒駒を太子が「神馬」と見抜き、調子磨にその世話をさせた。調子磨は、百濟の聖明王の縁者といわれ、温厚な人柄で太子に献身的に仕えた。ある日、太子が黒駒に試乗したところ、何と不思議、調子磨とともに雲に乗り天高く飛び上がった。

太子たちは東へ向かい、さらに

こで内政、外交、文化の思索に没頭、また仏教の研究、興隆に力を尽くした。

当時の都飛鳥の小塙田宮へは  
黒駒に乗り、調子磨を従えて片道  
約20キロメートルの道を往復され  
たという。

（とてもいい香りがした）と答えた。飢人が顔を上げると、目に金色の光がさしていった。太子は飢人を聖と直感。この飢人こそは、実は禪宗の開祖、達磨大師の化身であつたといわれる。

今  
東寺の境内  
聖德太子を祀  
る聖靈院脇の「馬屋」には、黒駒と  
調子磨の木彫が收められている。  
（『日本書紀』『聖德太子伝暦』『聖德  
太子絵伝』他を参考にしました）



## 駒塚古墳と調子丸古墳

駒塚古墳は斑鳩町にある3つの前方後円墳の1つで、町内では最も古いと考えられている。その駒塚古墳には、聖徳太子の愛馬の黒駒を葬ったとの伝承（太子が亡くなつた後、黒駒は何も口にせず、太子の墓の前で大きくなき死くなつた。それを憐れんだ人々により葬つた墓が駒塚である）が残る。

調子丸古墳は、駒塚古墳から約100メートル南にあり、聖徳太子の舎人の調子曆を葬つたとの伝承が残る円墳である。

この2つの古墳は平成4年に斑鳩町指定文化財になつてゐる。



物語の場所を訪れよう  
駒塚古墳、調子丸古墳(斑鳩町東福寺)  
IR法隆寺駅より北東へ約1.5km



問 斑鳩文化財センター  
☎0745-70-1200



左上:駒塚古墳、右下:調子丸古墳  
写真提供:斑鳩町教育委員会